大阪市立大学工学部同窓会報　第35号　　2019年12月20日発行

大阪市立大学
工学部同窓会

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3－3－138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人　宇野　勝久

《　目　　次　》

ご挨拶 …… 2
工学部・工学研究科の近況 …… 3
学科の近況・会員短信（機械工学科）…… 4
〃　（電子・物理工学科）…… 6
〃　（電気情報工学科）…… 8
〃　（化学バイオ工学科）…… 10
〃　（建築学科）…… 12
〃　（都市学科）…… 13
工学研究科・工学部研究分野 …… 14
2019年工学部入学生名簿 …… 15
〃　工学研究科入学生名簿 …… 16
〃　工学部卒業生〔就職・進学先〕…… 17
〃　工学研究科修了生〔就職・進学先〕…… 17
行事報告／学生見学会 …… 18
〃　／工学部新任・若手教授による講演会 …… 20
事務局便り …… 21
連絡先調査のお願い・編集後記 …… 23
2020年“工学部同窓会の集い”の案内 …… 24

ごあいさつ

大阪市立大学工学部同窓会長　**宇野　勝久**

工学部同窓会会員の皆さまには、ご健勝のこととお慶びを申し上げます。また日ごろより本会の活動にご理解とご尽力を賜り、心から感謝と敬意を表する次第です。

以前にも紹介しましたが、工学部同窓会の活動としましては、年１回の評議委員会及び工学部同窓会の集い、年４回の理事役員会、11月３日のホームカミングデーへの参加と「工学部新任・若手教授による講演会」の開催、学生の奨学金支援、学生を対象とした工場見学会等を実施しています。今年の工場見学会は、ＡＩｏＴエコシステム/８Ｋ＋５Ｇエコシステム向け研究開発や、ディスプレイデバイスの開発など、最先端の研究開発を行っているシャープ株式会社の天理工場の見学を９月27日に行いました。約64,000坪の大規模な敷地の中には工場や研究所の他に、シャープの製品開発の歴史を紹介するシャープミュージアムや、歴史のまち天理市を象徴する古墳等もあります。

さて、今年の４月には大阪市立大学と大阪府立大学統合に向けての新法人、公立大学法人大阪が設立され、2021年の統合へ向けて準備が進められています。2022年４月には、市大と府大が統合した新しい大学の新入生が入学します。今年の８月27日に、公立大学法人大阪から「新大学基本構想」が発表されました。その中で、新大学が目指すべき２つの新機能として「都市シンクタンク機能～都市問題の解決」と「技術インキュベーション機能～産業競争力の強化」が挙げられています。さらに、それぞれの機能に対する戦略領域として、「スマートシティ」、「パブリックヘルス／スマートエイジング」、「バイオエンジニアリング」、「データマネジメント」が挙げられています。

３年後の市大府大統合後に工学部同窓会がどのような形で存続していくかということが、大きな課題です。一つの案として、統合後の新大学の工学部の在学生や卒業生を受け入れて、新工学部同窓会として存続する方向があろうと思います。市大工学部同窓会はそのままでとなれば、何年も先には先細りになり同窓会存在の意義がなくなります。同窓会は、同窓会員の親睦を深める会であり、母校の応援をする会でもあり、また社会貢献をする会であろうと思います。これらの役割を果たせる同窓会として存続させるには、どのような体制がよいかについて、新大学の先生方や府大の学科の同窓会の方々と議論を積み重ねることが大切であると思います。

また、来年は、大阪市立大学創立140周年、工学部同窓会設立60周年という記念すべき年です。これらの周年をお祝いするイベントなどについても工学部同窓会としてどうするかについて協議を進めていきたいと考えております。

同窓会員の皆様のご支援、応援をよろしくお願いします。

（昭和49年　建築学科卒）

工学部・工学研究科の近況

工学研究科長・工学部長　長崎　健

今秋は天皇即位礼正殿の儀が執り行われ日本国の長い歴史と伝統に思いを寄せる良い機会となる一方、昨年に引き続き自然の脅威と国土強靱化の重要性を思い知らされる秋となってしまいましたが、同窓生各位には、ご健勝にお過ごしのことと思います。

貫上佳則副研究科長と川合忠雄教育研究審議員と共に工学研究科執行部として学部・大学院の難局運営に当たり一年半が経過しようとしています。

先ずは昨年に引き続きお目出度いお知らせです。令和元年秋の叙勲で小田一紀名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。心よりお慶び申し上げます。

続いて教員異動のお知らせです。本年３月に、佐伯壮一准教授（生体計測工学）が名城大学、遠藤智司准教授（環境化学）が国立環境研究所、岸田逸平助教（材料物性工学）が京都先端科学大学へ転出されました。一方、４月には金崎順一教授（生産加工工学）、岸本嘉彦准教授（建築環境）が着任され、梁剣波准教授（パワーエレクトロニクス）、北川大地講師（材料化学）が昇任されました。また、10月には佐藤絵理子教授（高分子科学）、鍋島美奈子教授（熱エネルギー）、尾島由紘准教授（細胞工学）、中條壮大准教授（河海工学）が昇任され教育・研究体制のより一層の充実強化に努めています。

次に学生の動向ですが、平成30年度に学部277人、修士197人、博士５人が巣立つ一方、今年度は学部306人、修士195人、博士15人の新入生を迎え入れました。後期博士課程への進学者数の低迷が日本全体で叫ばれる昨今、ここ５年間本研究科では９人→９人→16人→11人→15人と推移しており、６年前の進学者数４人という危機的状況からは脱しつつある状況ではありますが、教育研究の活力は後期博士課程生に依るところは大きく、更なる充足率改善に努めるべく議論を重ねており、同窓生におかれましても社会人ドクターとしてのリカレント教育を検討頂けましたら幸甚です。また、同窓会の支援なくして工学部は立ち行かない程諸々のお力添えを頂いておりますが、今年度から米国ウィスコンシン大学短期研修プログラムを実施するにあたり、参加学生に経済的支援を賜ることになりました。改めてお礼申し上げます。今秋の学祭において報告会が実施されました。たった２週間という短い経験が学生達をこれほどまでに積極的で逞しくするのかと感心させられ、若者のフレキシビリティを羨ましく思う機会となりました。

さて、今回寄稿するに当たり編集委員会より2022年４月に発足する新大学における新工学部について執筆の重きを置くように依頼されました。まだ不確定で流動的な面も多々あることを含み置き頂きますようお断り致します。

８月に公表されました新大学基本構想をご覧頂いた方も多いかと思いますが、市大工学部は府大工学域と統合し新工学部として新大学の中百舌鳥キャンパスにて教育研究を推進する予定です。教員は基本、工学研究科に所属しますが、電気情報工学科教員の一部は新大学において情報学を強化し、新研究科を設置するに当たり情報学研究科に異動します。新工学部は航空宇宙工学・海洋システム工学・機械工学・建築学・都市学・電子物理工学・情報工学・電気システム工学・応用化学・化学工学・マテリアル工学・化学バイオ工学の12学科で構成されます。教員数260余名、学生定員741名の大組織となり、工学系学部の学生定員では神戸大学や都立大学を上回り、国公立大学トップ10内にランクし、新大学でも中心的な組織に生まれ変わる予定です。

重要なのはその中身ですが、市大工学部では昨年度より工学研究科３教育研究センターを開設し、尖った分野のより一層の強化を行っていますが、新工学部においても、「医工学」・「臨海都市科学」・「フレキシブルデバイス」・「全固体電池」・「スマートドローン」・「先端ものづくり」の分野で強みを発揮すべく教育研究センター構想を準備中であり、センター棟の建設を新法人に要請するなど、工学部を中心とした魅力ある中百舌鳥キャンパスの実現を目指して、準備を進めています。

昨年も書かせて頂きましたが、本学の特徴と伝統を活かしつつ、新大学においてよりよい工学教育・工学研究を遂行できるよう、現役教員一丸となり叡智を絞り社会に貢献していく所存ですので、皆さまにはより一層のご支援をお願い致します。末筆になりましたが、同窓生各位の今後益々のご活躍をお祈り致します。

（工学研究科長・工学部長）

学科の近況・会員短信

機械工学科（旧機械・旧知材）

機械工学科の近況

工学研究科教授・機械工学科主任教授
兼子　佳久

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まず教員の異動についてご報告させていただきます。３月末をもちまして、生体計測工学分野の佐伯准教授および材料物性工学分野の岸田助教が他大学にご栄転されました。一方、４月に大阪大学から金﨑順一先生が生産加工工学分野に教授として新たに着任されました。金﨑教授の専門は、光誘起による表面構造の変化や超微細加工などです。金﨑教授は以前、本学知的材料工学科に教員として在籍しておられましたので、今回およそ14年ぶりにカムバックされたことになります。

学生・大学院生の就職の状況は引き続き好調です。平成30年度は、４年生は15人が就職し、40人が大学院前期博士課程に進学いたしました。また、前期博士課程の大学院生は39人が就職し、後期博士課程には１人進学いたしました。

10月19日（土）には、本学において日本機械学会関西支部第20回秋季技術交流フォーラムを開催いたしました。日本機械学会関西支部の秋の講演会は、関西支部所属の各懇話会の企画のもとで技術フォーラムという形式で機械工学・技術における最新の話題を提供していただいております。今回は７つ懇話会からなるセッションで、大学や企業の研究者の講演がございました。特別講演では、本学機械物理系専攻の松岡千博教授に「カオスの決定論的記述と未来予測」という題目で最新の話題を提供いただきました。参加者からも好評で、懇親会でも引き続き活発な議論がなされておりました。

末筆ではございますが、今後の皆様のご活躍を祈念するとともに、引き続き機械工学科へのご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

四四会卒業50周年記念旅行

昭和44年機械工学科卒　　**吉村　啓介**

「四四会」は、機械科昭和44年卒の同窓生の集まりです。卒業以来毎年欠かさず、お正月には梅田で同窓会をしています。

今年は、特別に卒業50周年を記念して10月９日から11日まで２泊３日の甲府旅行を行いました。夫婦６組、男性10人総勢22人が、甲府の石和温泉「ホテル平安」に集結。夜はメンバーの「かっぽれ」や「落語」を見ながらの大宴会。２次会も近況報告などで夜遅くまで盛り上がりました。

翌日は、車に分乗し、それぞれが別行動で好きなところを観光し、夕方、山中湖畔の「ホテル多賀扇」で再合流。夜は、またまた大宴会、ビンゴゲームで豪華景品も。２次会では、２年後に九州旅行をしようということになりました。

最終日の朝、ホテルのロビーで幹事長の解散宣言。帰る方向が同じ人の車に分乗し、再会を誓って別れました。

気のおけない同期の仲間との本当に楽しい３日間でした。

国立研究開発法人海洋研究開発機構　平成７年機械工学科卒・平成９年修了　**馬場　尚一郎**

卒業生の皆様は、各方面でご活躍のことと思います。私は1997年３月まで機械工学科の流体工学研究室でお世話になりました。

学生時代は、液体を本研究室の独自の方法で液滴に微粒化し、空気中に分散させるメカニズムを知るため、先輩から引き継いだ実験装置を工夫して、可視化実験に取り組んでいました。

修了後は、㈱IHIに入社し、熱流体研究部に配属されました。熱交換器や冷凍機を用いた省エネルギーシステムの開発研究に携わることができ、本学で学んだ知見を活かすことができました。

また、所属先にて本学でまとめた研究内容を発表したところ、部長から「君は、研究室でよい指導をしてもらってきたね。」と褒められたことを今でも覚えています。学生時代は気がつきませんでしたが、本学での研究への取り組みを振り返ってみると、成果を求めすぎず基礎的な実験を地道に積み重ねること、自らの信念に基づいた独自性を大切にすることを学ばせてもらっていたと感じています。

現在は、2008年に海洋研究開発機構に転職し、地球環境変動をモニタリングするための海洋観測機器の開発を行っています。赤道直下のトロピカルな太平洋、“吠える40度、狂う50度”と呼ばれる荒れた南大洋、さらに地球環境変動の影響が顕著に現れる南極海の氷縁などで、海洋の偉大さ、深淵さを肌身に感じながら観測を行っています。今後は、海洋ゴミや二酸化炭素の排出を抑えた、環境に負荷をかけない観測機器を開発していく予定です。

最後になりますが、在学中は先生方や本学関係者の皆様に大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「ナニワめしもディープな世界」

平成16年知的材料工学科卒・平成18年修了　**成田　猛**

前期博士課程を修了後、電気機器メーカーに入社しました。入社後は生産設備を構築する生産技術の業務に携わっており、ここ最近は人工知能の活用というテーマで新しい技術の検証に取り組んでいます。人工知能ということで人間より賢くて何でもやってくれそうとの軽い期待で始めたのですが、18年ガードナー社のハイプサイクルでディープラーニングは「過度な期待」と示された通り、「すごい賢い」けど「出来ることも限られている」ため本格的な活用には技術の本質的な理解が求められると今は感じています。何よりディープラーニングを理解する上で微分や線形代数の数学の基礎は欠かすことができません。学習にあたり十数年ぶりに転置行列という言葉と再開しました。すっかり忘れていると思っていたのですが、すぐに勘を取り戻して行列の四則演算が出来るようになったのは大学時代にきちんと基礎を学んでいたからだと思います。学びという点では卒業以降も新しい技術を学習する機会がとても多く苦労することもあるのですが、理解が進んだときの喜びであったり、会得した知識がふとした閃きにつながったりすると非常に嬉しくなったりするので今後も新しい学びを続けていきたいなと思っています。

趣味の食べ歩きにおいても「ナニワめし暮らし」を読んでいて「たこ焼き・串カツだけではない」と地元の学び不足を痛感する機会がありました。敬愛なる同期の中谷准教授に「次の同窓会はぜひナニワめしツアーで！」とこの場を借りて伝えておきたいと思います。末筆ではございますが、学生時代お世話になりました先生方、そして同窓生の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

イオンモール㈱　平成26年機械工学科卒　**北下　裕基**

この度は近況報告寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。私は2014年３月に機械工学科を卒業し、イオンモール株式会社に入社致しました。イオンと聞くと、小売りのスーパーを思い浮かべる方も多いかと思いますが、イオンモールは商業施設を開発・運営する商業専業ディベロッパーとして不動産業を行っている企業です。私は２年前より大阪にあるモールに配属され、オペレーション担当として施設の安全性・快適性向上や、コストの最適化に取り組んでおります。特に今年は館内空調設備の投資工事を行なって光熱費の最適化を行なったり、専門店の従業員教育を始めたり、と日々幅広く業務をさせて頂いております。機械工学科で不動産業という少しイレギュラーな就職ではありますが、設備や入退店工事など施設管理をしていると、理系を卒業したことでのプラスも少しは感じたりもしております。

さて私事ではございますが、２年前に結婚を致しました。転勤族ということもあり少し早目な結婚ではありましたが、最近では大学時代の友人の結婚も増えてきております。自分の結婚ではあまり大きな変化を感じなかったのですが、周りの友人の結婚を聞くと、もう大人になったんだなぁ、と感じてしまいます。卒業して約６年。学生時代は顔を合わせば話をしていても、卒業以来お会いできていないという方も沢山います。また機会があれば是非、お酒を一緒に飲めればと思いますので、私のことを覚えておられる方いましたら、いつでもご連絡下さいませ。

末筆ではございますが、学生時代にお世話になりました先生方、そして同窓生の皆様のご健勝と今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

電子・物理工学科（旧電気一部・旧応物）

電子・物理工学科の近況

工学研究科教授・電子物理工学科主任
教授
重川　直輝

卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

応用物理学科と電気工学科の学科再編により平成21年４月に発足した電子・物理工学科は、発足後10年が経過し11年目を迎えることができました。皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

本学科では、平成31年３月に37名が卒業、その内32名が本学大学院に進学、５名が就職しました。４月には49名の新入生を迎えました。大学院前期博士課程では、34名が修了、その内30名が就職、４名が後期博士課程に進学しました。

学科の体制としては、４月に梁　剣波氏がパワーエレクトロニクス分野の准教授に昇任しました。また、学科の教育研究体制強化の一環として、従来の３領域／10分野体制から、２領域（「物質機能工学」「エネルギー機能工学」）／５分野（「光機能工学」「数理工学」「表面機能工学」「パワーエレクトロニクス」「プラズマ工学」）へと学科内部の組織整備を行いました。

研究面では、工学研究科共創教育研究機構のセンターとして、白藤教授を中心とする医工・生命工学教育研究センターと小職を中心とする機能創成科学教育研究センターがともに２年目を迎えました。

教育面では、本学と大阪府立大学による博士課程教育リーディングプログラム（平成25年度発足）に対する文科省の補助期間が終了しました。かねてよりプログラムを推進する上で工学部同窓会によるご支援を賜っておりますが、引き続きのご支援宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈りするとともに、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

昭和44年応用物理学科卒・昭和46年修了　　**斉藤　寿士**

私は、ちょうど50年前の昭和44年（1969年）応用物理学科を卒業、46年修士課程を修了しました。当時大学紛争が激化し、市大においても私たちが卒業する直前に本部が一部学生により封鎖され、卒業式は各学部で分散して行われたと記憶しています。そのため卒業後の祝杯もありませんでした。幸い工学部は封鎖されなかったので、大学院では講義はほとんどなかったものの研究室の人たちと輪講をしたり、実験に明け暮れていました。

卒業後、電気メーカーに就職しました。社内には多くの市大卒業生が居られましたが、「市大は群れない」と言われるように、長い間同窓生とは分からずに一緒に仕事をしていた仲間が大勢いました。定年間際にISO認証機関に出向を命ぜられ、始めて東京で２年間の単身赴任も経験しました。定年後３年ほど別の会社に就職しましたが、その頃から趣味を持たないといけないと感じ、ゴルフを始めまた、サックスホーンを習い始めました。サックスホーンでは、ジャズバンドに参加し９月には３回目の定期演奏会は開催しました。

私たちの応物同期の同窓会も「群がること」を知らず、９年前に一度開催したきり、一堂に集まることがありませんでした。そこで今年がちょうど卒業50年を機に、９月28日に同窓会を開きました（写真）。参加者は９名と少しさみしい会でしたが、９年ぶりに顔を合わす事ができ、学生時代の話に花を咲かせました。参加者に中には、未だ現役で頑張っているもの・地域のボランティアに励むもの・社会人家庭菜園で対象の物理講座に参加するものなど、健康に留意して元気に活動をしています。物忘れが激しく認知症を心配するものが多くいましたが、２年後元気に再会することを決めました。

（株）デンソー　平成29年電子・物理工学科卒

山下　雄大

2017年３月に電子・物理工学科を卒業し、株式会社デンソーに入社いたしました。会社では、自動車の技術開発・製品仕様に関わる法規・標準の動向調査、規制当局・標準化機関等への働きかけ（渉外）といった業務を担当しています。

自動車業界は今、自動運転・電動化・コネクティッド・シェアリング等、100年に一度と言われる大変革期を迎えており、世界各地域でその変革に対応する新たな法規・標準作りが始まっています。一般的に、日本はカイゼンに代表される継続的取り組みが得意であり、製品が出来上がってから規格化や標準化を考える傾向にあると言われておりますが、欧米は製品化の前に自分達が勝てるビジネスコンセプト作りから始めることを得意としています。今後、欧米や中国の会社に打ち負かされないためにも法規・標準に先手を打つ渉外活動や法規適合対応に尽力し、同時に持続可能な社会の実現に向けCO₂排出量削減やエネルギー問題、交通事故死者数の減少に貢献したいと考えています。

プライベートでは、仕事柄英語を使ったり海外の方とやり取りする機会が増えたことで、海外旅行が趣味になりました。入社以来、長期休暇を利用して台湾, イタリア, スペイン, インド, 中国,　オーストラリアを訪れ、インドには電物の同期と２人で旅行をしました。ほどなくして２人共ひどい腹痛に襲われたのも今となっては良い思い出です。今でも大阪に来る機会があったときは電物の同期と一緒にお酒を飲むなど、当時と変わらず良い関係性が続いていることを非常に嬉しく思います。

最後になりましたが、学生時代お世話になりました先生方、そして同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、近況報告とさせて頂きます。

電気情報工学科（旧電気一部・旧情報）

電気情報工学科の近況

工学研究科教授・
電気情報工学科主任教授
仕幸　英治

卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より学部ならびに学科の運営に多大なご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当学科は、旧情報工学科から2013年度に改称して誕生して以後、成長を続け、昨年度より、エレクトロニクス、情報処理、情報通信、応用システムの４領域体制となったこともあり、更に発展しております。

2019年度卒業予定者の進路として、27名が本学大学院等の前期博士課程に進学、14名が民間企業等へ就職予定です。大学院前期博士課程修了予定者について28名が民間企業等に就職予定です。来春社会に巣立つ卒業生、修了生の活躍に教員一同大いに期待しております。

研究面について、髙橋秀也教授が映像情報メディア学会フェローの称号を授与されました。後期博士課程の島崎拓則さんが第13回ITヘルスケア学術大会においてプレゼンテーション賞を受賞しました。前期博士課程の中村秀朗さん、濱岸五郎客員教授、吉本佳世助教、髙橋秀也教授が、International Display Workshops 2018においてBest Paper Awardを受賞しました。同じく前期博士課程の河野隼也さん、北田友哉さんが平成30年電気関係学会関西連合大会において連合大会奨励賞をそれぞれ受賞しました。その他にも多くの受賞がありました。心よりお祝い申し上げます。

教育に関し、本学に長年ご尽力された辻本浩章教授、杉山久佳准教授が2019年度末にて定年退職予定です。これまでのご活躍に感謝いたしますと共に今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後に、卒業生の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしますと共に、引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

奈良県庁　平成24年電気工学科卒・平成26年修了

佃　尚輝

平成26年に電子情報系専攻の修士課程を修了し、技術系の公務員として奈良県庁で働いています。最初の４年間は営繕課という建築系の部署に配属となり、学校の耐震改修工事や観光施設の新築プロジェクトなどに電気設備の担当者として携わりました。建築の知識がない最初は苦労しましたが、様々な現場を体験できたことですっかり建築が好きになり、一人で東京まで建築家の安藤忠雄の展示会に足を運ぶまでになりました。電気設備に関する技術も向上して第二種電気主任技術者を取得することができ、今振り返ると充実した時間を過ごすことが出来たと思います。この営繕課時代に最も思い出に残っているのは、平成30年にオープンした平城宮跡の朱雀門ひろばの観光施設新築プロジェクトです。もし奈良に来られる機会があれば、ぜひ一度訪れてみてください！

平成30年４月からは奈良県産業振興総合センターに異動となりました。いわゆる公設試験場と呼ばれる機関であり、主に県内の中小企業から試験や検査の依頼を受け、保有している様々な試験機器を用いてその課題を解決することを業務としています。奈良県の場合は金属加工や化学系の企業が多いため、それらの企業から相談がほとんどです。そのため私にとっては専門外で分からないことも多いですが、良い機会と考え新しい知識やスキルを吸収していきたいと思っている今日この頃です。

末筆になりますが、学生時代にお世話になりました先生方、そして同窓生の皆様のご活躍を記念し、近況報告とさせて頂きます。

下菊　秀紀

平成26年情報工学科卒・平成28年修了

2016年３月に電子情報系専攻前期博士課程を修了し、株式会社ダイヘンに入社いたしました。（株）ダイヘンは柱上変圧器をはじめとした電力機器事業、プラズマ発生用高周波電源装置をはじめとした半導体関連事業、そしてアーク溶接機をはじめとした溶接メカトロ事業を主な事業とする会社です。その中で私は溶接機事業部の技術部に所属しており、アーク溶接機の電気回路の設計・評価を担当しております。仕事をしている中で特に大事だと感じた事は、「お客様目線に立つ」事です。当たり前のことだと思われるかもしれませんが、製品開発を始めた直後は「喜ばれる製品を作りたい」という思いがあっても、コストや納期等様々な制約のため、気付いたら「お客様目線」から「開発者目線」での開発になってしまっていることがありました。せっかく製品をリリースしても、お客様の望んでいない製品であれば、開発する意味がありませんし会社にとっても損失になります。特にアーク溶接機は自動車、造船、建機、鉄骨、建築等、金属を扱う多くのメーカで利用されており、その使われ方は様々です。それぞれの現場環境を想定し、多くのお客様に喜んでいただける製品を生み出せるよう日々邁進しております。

私生活では、２月に長男が生まれ、最近はつかまり立ちを始めるようになりました。どんどん目が離せなくなる一方、日々成長している姿を見られることが非常に楽しみで、早く帰りたい一心でこれまで以上に業務を効率的に進められるよう自己鍛錬に励んでおります。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、私の近況報告とさせていただきます。

栗山　裕貴

平成27年情報工学科卒・平成29年修了

2017年３月に電子情報系専攻前期博士課程を修了し、関西電力株式会社に入社いたしました。現在は配電部門で用品・技術開発業務に従事しております。具体的には、新たに当社へ導入する用品について、性能をメーカーと協議したり、作業性を直営作業員と検証したりする業務です。社内外関係なく多くの人と相談しながら、これまでにない技術について検討していく業務にやり甲斐を感じております。

現在の職場へは９月に異動になったばかりであり、それ以前は営業所の現場第一線で、配電設備の保全業務や配電系統の運用業務に携わっておりました。現場業務に当たった２年の間には、昨年度の大阪北部地震や台風21号の関西直撃、今年度の台風15号の関東襲撃等、近年稀に見る天災に見舞われ、電力インフラを維持していくことの厳しさを実感する経験となりました。

私生活においては、社会人になってから登山を始めました。周りから誘われ、健康に気づかって始めたことがきっかけでしたが、登頂の達成感や山頂から眺める景色は格別であり、今では趣味の１つとなりました。１カ月に１回程度のペースで大学時代の友人や職場の先輩方とお互いに誘い合い、自然の中でのリフレッシュを図っております。登る山のほとんどが低山ですが、これからも続けることで、より高い山にも挑戦していきたいと思っております。

在学中に所属していたサークルの集まりや会社のリクルータ活動で、大学を訪問した際には、在学されている方々の近況等もお伺いできればと存じます。末筆ではございますが、大阪市立大学の先生方および同窓会の皆さまの益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

化学バイオ工学科（旧応化・旧生応化・旧バイオ）

化学バイオ工学科の近況

工学研究科教授・化学バイオ工学科主任教授
北村　昌也

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。まず、化学バイオ工学科の近況です。学科教員の異動としましては、2019年４月に北川大地先生が講師に、10月には佐藤絵理子先生が教授に、尾島由紘先生が准教授にそれぞれ昇任なさいました。また2019年４月から松山嗣史先生および神戸正雄先生を特任助教としてお迎えいたしました。しかし、神戸先生は、10月に大阪大学に転出なさいましたので、2019年10月時点の学科教員は、特任を含めまして23名となっております。その中で長﨑教授は工学研究科長として２年目で、新大学の開学に向けた舵取りに奔走されています。次に、学科教員や学生・院生の受賞ですが、国際学会やシンポジウムでの奨励賞やベストポスター賞など、枚挙に遑がありません。特筆すべきものとしまして、辻教授が日本分析化学会2019年度学会賞を、尾島准教授が南部陽一郎記念若手奨励賞を受賞されたことをお知らせいたします。

最後に学生の進路ですが、今年も非常に順調に進んでおります。それも卒業生の皆さんが各企業においてご活躍になり、本学、本学科の評判を高めておられることが大きいのではないか思います。しかし、最近は同じ会社に複数名入社することが常態化しており、個人的には少し疑問に感じております。また、前期博士課程から後期博士課程に進学してくれる院生がおりませんでしたし、社会人ドクターも年々減ってきております。生涯学習が叫ばれる昨今、是非母校にて学び直しをお考えください。

最後になりましたが、今後の皆様の益々のご活躍を祈念いたしますとともに、引き続き本学科へのご支援とご鞭撻をよろしくお願いします。

平成13年応用化学科卒・平成15年前期修了・平成18年後期修了　**大下　晋弥**

化学生物系専攻の博士課程を修了してから、はや13年が過ぎました。当時お世話になった先生方も半分以上が退官・転出されています。きっと使う薬品や溶剤もかわり、建屋の匂いもかわっているだろうなと考えながら、当時を思い返しております。今でもアミンを嗅ぐとふと当時の記憶がよみがえるので不思議なものです。

根気のなさを見破られているためか、入社してから倉敷、鹿島、つくば、東京など５度の転勤を経験し、今はテキサス州ヒューストンで働いております。杉本町の工学部棟に９年間も通っていた（後半は住んでいた？）ことを思うと大きなかわりようです。昨今のノーベル化学賞受賞者の先生方が腰を据えた基礎研究をと警鐘を鳴らされているのは耳が痛い話です。とはいえ、環境をかえると見える景色もかわり、違う切り口のアイデアが出ることもあるので悪い話だけではないと思うようにしています。

近況ですが、ヒューストンのレストランで同じ研究室で過ごした後輩に偶然出くわすという嬉しい出来事がありました。前週に新しく赴任してきたとか。彼とはドイツの展示会でばったりと会った事もあり、何か特別な縁があるのかもしれません。中年男性二人の出会いですので、とくにドラマチックな出来事は起きませんでしたが。アメリカには、この運命の彼以外にも応化の高分子系（今は分子科学領域と呼ぶようです）の出身者が他に２名いることが分かっています。１名とは出張にかこつけアメリカで食事をする機会もありました。ずいぶんと世界は小さくなりました。

写真も添付しておりますので、世界のどこかで私を偶然見かけた際はお声掛けください。その出会いで何か化学反応が起こるかもしません。

平成24年バイオ工学科卒　**道志　弘輝**

私は2014年に化学生物系専攻前期博士課程を修了し、東洋製罐株式会社に入社しました。弊社は金属缶やプラスチックボトルを製造する包装容器メーカーです。私は入社以来グループホールディングス所属の研究所の研究員として仕事をしていましたが、昨年より研究所の研究テーマの進捗管理や研究テーマの企画・探索を行う部署へ異動しました。

新しい部署ではすべての研究テーマの内容把握だけではなく、来所者へ研究所の概要やこれまでの研究開発の流れを紹介することも多く、それまで新規事業として進めていたライフサイエンス分野の研究開発に没頭していた私にとっては毎日が勉強でした。ただ仕事を通じて研究所あるいは会社全体のことを深く理解できる良い機会と捉え日々励むようにしました。その甲斐あってか、当初は先輩の方々に頼ってばかりでしたが、現在では独りでもある程度こなせるようになり、任せられる仕事も増えてきました。

また会議や打ち合わせに参加する機会も多くなり、所内外の方々との交流も増えたことでグループ会社の事業領域やグループ全体における研究所の位置づけなどを改めて認識することができました。特に研究所として求められていること、取り組まねばならないことを、この部署に異動して明確にできたように感じています。そして今後再び研究員として研究開発に携わるときの糧としていきたいと考えています。

大学の研究室へはOB訪問の際に毎年お邪魔しております。在学時から変わったところもありますが、訪れる度にあの頃の研究室生活を思い出しとても懐かしく感じます。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

平成24年応用化学科卒・平成26年修了

八木　良太

私は2015年に化学生物系専攻前期博士課程を修了し、日鉄住金テクノロジー（株）（現、日鉄テクノロジー（株））へ入社しました。当社は親会社である日本製鉄（株）の品質保証を担う試験・分析会社であり、日本製鉄グループの分析技術を支えております。入社に至った理由は、研究室において蛍光X線分析に触れたことがきっかけで分析の奥深さに興味を持ったためです。入社後は千葉県の富津事業所に配属となり、約４年間は化学分析、特にICP-OESやICP-MSといった機器分析装置を用いた微量元素分析に携わり、５年目からは電子顕微鏡分析を担当しているため、蛍光X線分析からは遠ざかっておりますが、研究室時代を含めると様々な分析手法に触れることができました。担当分野が変わると測定方法のみならず試料の前処理操作に慣れることが必要で苦労しますが、測定そのものよりも前処理操作の出来次第でデータが変わることが多く、その重要性を感じさせられます。また、分析装置の改良は日進月歩であり、多機能で高性能な装置が次々と開発されており、装置がどんどんブラックボックス化しつつありますが、装置に使われるのではなく使いこなせるよう各装置の特徴や解析手法について勉強し、日々努力を重ねております。

私生活の方ですが、人生で初めて関西以外の地に住むことになったため、最初は不安ばかりでした。しかし、千葉県はコンパクトなエリアに海あり山ありと自然豊かで、住んでみるとなかなか暮らしやすくて良い場所です。せっかくなので新たな趣味をとは思いましたが、結局大学時代に引き続き吹奏楽を続けております。

最後になりますが、皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念いたしております。

平成26年化学バイオ工学科卒

肖　文沁

お久しぶりです。

卒業から既に４年経つことに驚いておりますが、お陰様で変わらず元気に過ごしています。

小林製薬に勤め、日々世の中にこんなモノがあったら面白いのでは、と頭を悩ませつつそれが楽しいと感じています。仕事内容は製品開発、具体的には洗浄・家庭用品の作用機構設計～量産立ち上げまで幅広く担当しています。難しいことは多いですが、なんとかなる気がすればとことん追求し、乗り越えた日には無常の喜びを感じます。その甲斐あってか、昨年研究所内の出願特許件数、技術分野において賞を頂くことができ、充実しています。

思えば入社時の「モノづくりを頭からお尻まですべて知りたい！」という欲望をそのとおり満たす事ができています。出張が多く忙しくはありますが、新たに面白いことに従事するたび、世の中って広いなあ、人生って深いなあ、とわくわくします。

最近は「モノを作る」方だけでなく、「モノを買う人」が興味深く、知りたいと思う度に多様性がありすぎるため圧倒されています。

普段は自身も一消費者でありながら、製品開発時はどうしても技術者としての面白いモノにときめくのですが、それが消費者にとって同じとはならない。そのギャップがむず痒く、でもなんとかなる気がするので、消費者に伝わる面白いモノをいつか必ず開発したいとこころは激アツです。

４年前の私が現在を想像できなかったように、より未来の自分が何に興味を持ち、何を知って何を知りたく願うのか、仕事だけでなく人生が楽しみでなりません。

最後になりますが、皆様お元気にてお過ごしでしょうか。いつかお会いした際は是非お互いの人生のわくわくについて共有し合いませんか。

建築学科（旧建築・旧環都一部）

建築学科の近況

工学研究科教授・建築学科主任教授
谷口　与史也

卒業生の皆様にはますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また日頃より学部ならびに学科の運営に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

学科近況報告ですが、2019年３月に学科から28名が卒業し、建築系の前期博士課程から17名が修了しています。就職先は設計事務所、ゼネコン、ハウスメーカー、公務員などと例年通りのものが多くを占めていますが、宮大工を目指す者も現れました。そして４月には36名が学部に新たに入学し、建築系の前期博士課程には17名、後期博士課程にも１名が入学して相変わらず忙しくしております。学科のカリキュラムは総合建築教育を維持していますが、林業実習を取り入れた特色ある教育を、若手教員を中心として数年前より実施しております。その他にもそれぞれの研究室でワークショップなるものを開催しており、国内に留まらず海外でもユニークな活動をしております。現在大学の国際化はひとつの目標となっています。

次に建築系の後期博士課程の９月修了者は２名居りまして、中村良平氏（建築2006年卒）と角田優子氏が博士（工学）の学位を授与されています。お二人の今後のご活躍を期待するとともに、卒業生の皆様には博士号へのチャレンジをぜひご検討いただくようお願いいたします。

最後に学科の人事異動ですが、４月に建築環境工学分野に岸本嘉彦准教授が着任されました。主に湿気の研究（熱と水分の移動）を専門としています。

末筆になりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍とご健康を祈念いたしますとともに、引き続き学部・学科へのご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成27年建築学科卒・平成29年修了

奥田　拓也

私は2017年３月に都市系専攻前期博士課程を修了し、同年４月に厚生労働省に入省し、労働基準監督官として任官されました。

労働基準監督官は文系学部出身の者が主に就く仕事だと思われがちですが、実は理系学部出身者の採用枠もあります。

そのほか、民間企業等の勤務経験者もおり、同期には銀行や市役所、さらには盲導犬の訓練士などの非常にバラエティに富んだバックグラウンドを持った人のいる職場です。

現在は千葉県内にある労働基準監督署で勤務しています。

労働基準監督署には、①労働者の労働時間や賃金などの労働条件が最低基準を下回っていないかを確認し、違反があれば是正を指導する監督部署、②工場などで作業する労働者が労働災害に被災しないように必要な指導を行う安全衛生部署、③労働者が仕事中に怪我をした場合に労災保険に基づく労災部署、以上大きく分けて３つの部署があります。

ここまでの話では、「建築と全く関係が無いではないか。」と思われそうですが、実際のところは、労働災害が多発する上位３業種の中に建設業が入っており、最近では東京オリンピック関係の工事に従事する労働者に長時間労働が発生しているなど、何かしらの関わりがあります。

そのため、建築工事現場の安全管理状況を抜き打ちで調査する際には、建築学科で学んだ知識がかなり役立っています。

労働者が死亡する重大な労働災害が起こった場合は、災害発生現場の見取図の作成や原因分析にかかる計算などで、自分の専門性を最大限活かせています。

『働き方改革』が進められる中で、これまで以上に労働基準監督官の仕事の重要性は高まっています。

今後も建築学科出身の強みを活かして業務に取り組んでいきます。

都市学科（旧土木・旧都基・旧環都）

都市学科の近況

工学研究科教授・都市学科主任教授
嘉名　光市

卒業生の皆様には、学外実習の受入や業界説明会でのご講演など、都市学科（並びに大学院・都市学講座）学生の成長に多面的なご支援をいただき誠にありがとうございます。

令和元年度卒業予定者の進路は、在学４年生59人のうち38人が本学大学院などの前期博士課程に進学予定であり、15人が企業・官公庁から内定をいただいています。修士２回生は４人が技術系公務員として、28人がゼネコン､建設コンサルタント､環境・設備系メーカーなどの企業への就職が内定しています。

教員の異動は、平成31年３月に遠藤智司准教授が国立環境研究所に転出されました。また、令和元年10月には中條壮大講師が准教授に、鍋島美奈子准教授が教授にそれぞれ昇任されました。

活動面では、工学研究科を中心とした研究組織「都市科学教育研究センター（CUES: " C " enter for " U " rban Socio- " E " cological " S " ystems)」が平成31年４月に開設されました。同センターは都市を、物・人・貨幣・情報のコネクティビティからなる”社会生態システム”として捉え、そのしくみの解明と予測・評価に資するコミュニケーションプラットホームを構築し、SDGｓに根ざした未来社会の姿を描くことを目指しています。

社会情勢も踏まえつつ堅実・着実な研究・人材育成を進めております。卒業生の皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

卒業後半世紀を振り返って

昭和43年土木工学科卒　　**表　源太郎**

1968年（昭和43年）に卒業以来、はや半世紀が過ぎました。振り返ってみるに、当時学生運動が過激さを増すのを尻目に、就職活動の悩みも全くなく、ゼネコンに就職しました。高度成長期の波に乗って朝は朝星、夜は夜星の世界に突入。学生時代のコンサルのアルバイトが役に立ち、ずっと設計・技術畑を歩んできました。多数のプロジェクトに携わりましたが、入社当時に堺の新日鉄で携わったプラント基礎など、今やその面影もありません。鉄は国家なりなんて言われていたのですが、改めて時代の流れを感じます。

阪神大震災も大変貴重な経験でした。卒論テーマのコンクリート高架橋が脆くも崩壊したのを見た時は本当にショックでした。

当時、設計は計算尺、そろばん、手回し計算機でしたが、今ではコンピュータの発達とともに高度な解析が簡単に行えるようになり耐震技術も大変進歩しました。

一方、河川、宅地開発などにおいては昨今の異常気象による災害が増大しています。ハードからソフトへ、防災・減災技術の重要性が問われています。

自分が携わった土木構造物や宅地など、ちゃんと残っているのを見るとホッとします。50年と言えば土木構造物の寿命が問題となってきます。これからも地球規模の気候変動や人口変動、さらにはAIの進歩など、目まぐるしい環境変化に伴い土木の世界もますます変わってくるものと思われます。

半世紀にわたる私の土木屋人生の中で世界がこんなにも急速に変化してきたことに、今さらながら感慨を覚える今日この頃です。

昭和63年土木工学科卒　　**矢野　幸子**

同窓生の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

昭和63年に土木工学科（当時）を卒業して以来、会社を変わりつつも建設コンサルタントで橋梁の設計に携わってきました。鋼構造を主に、コンクリートから土までオールマイティに設計をしており、広く浅くから広く深くへの移行ができず、いつまでたっても実力不足を実感し、学生時代の怠けていた自分を呪っております。

就職当時ならそろそろ引退が見えてくるはずの年齢ですが、現時点で私の定年は70歳（それ以上？）になると予想され、まだまだ現役生活真っ只中、仕事中心の生活をしております。しかしいつまでも「趣味は仕事」のような生活を送るのも味気ないので、仕事以外も楽しむ努力をしています。

読書好きで家には読む予定の本が山積みですが、油断すると引きこもってしまうので、最近は歴女の友人にお願いして神社仏閣と城巡りに連れ出してもらっています。

先日も奈良県十津川村にある玉置神社へ行き、参道をめぐりお参りをすること約３時間。山上にある神社なので、私の感覚では山登りとなり、翌日足が筋肉痛になりました。大阪から神社への道中にある谷瀬の吊り橋にも立ち寄りましたが、仕事で高所での点検をしているためか、吊り橋のスリルが感じられず、怖がっている友人をうらやましく思いました。

来年にはブータンへの旅を計画しており、引きこもりからの脱却に頑張っています。

工学研究科・工学部の研究分野一覧

専攻名	学科名	分野名	教員名
機械物理系	機械工学科	環境熱工学	西村　伸也
		熱プロセス工学	伊與田　浩志
		流体工学	加藤　健司
			脇本　辰郎
		機械力学	川合　忠雄
			今津　篤志
		生態計測工学	佐伯　壮一
		材料数理工学	山崎　友裕
			大島　信生
		動力システム工学	瀧山　武
		ロボット工学	高田　洋吾
		生産加工工学	金崎　順一
			川上　洋司
		材料物性工学	横川　善之
		材料知能工学	逢坂　勝彦
			中谷　隼人
		材料機能工学	兼子　佳久
			内田　真
化学生物系	化学バイオ工学科	無期工業化学	山田　裕介
			有吉　欽吾
			田部　博康
		工業物理化学	辻　幸一
			松山　嗣史
		有機工業化学	畠中　康夫
			南　達哉
		高分子化学	堀邊　英夫
			佐藤　絵理子
			甲田　優太
		材料化学	小畠　誠也
			北川　大地
		反応化学工学	米谷　紀嗣
		生物化学工学	五十嵐　幸一
		生体機能工学	長崎　健
			東　秀紀
		生物分子工学	北村　昌也
			中西　猛
		細胞工学	東　雅之
			尾島　由紘
		創薬生命工学	立花　太郎
			伊原　寛一郎
		生体材料工学	立花　亮
複合先端研究機構			吉田　朋子

専攻名	学科名	分野名	教員名
電子情報系	電子・物理工学科	光機能工学	中山　正昭
			金　大貴
			竹内　日出雄
			菜嶋　茂喜
		数理工学	寺井　章
			杉田　歩
		表面機能工学	福田　常男
			小林　中
			田中　健司
		パワーエレトロニクス	重川　直輝
			武智　誠次
			梁　剣波
		プラズマ工学	白藤　立
			呉　準席
			村治　雅文
	電気情報工学科	光電子工学	宮崎　大介
		電磁デバイス工学	辻本　浩章
		スマートエネルギー工学	仕幸　栄治
		システム制御工学	蔡　凱
		情報システム工学	高橋　秀也
			吉本　佳世
		情報処理工学	林　和則
			中島　重義
		知識情報処理工学	田窪　朋仁
			上野　敦志
		情報ネットワーク工学	岡　育生
		情報通信工学	原　晋介
			杉山　久佳
			辻岡　哲夫
		マルチメディア工学	阿多　信吾
		分散システム工学	安倍　広多
		情報基盤工学	石橋　勇人
			大西　克実
		知識情報処理工学	村上　晴美
		空間情報システム工学	永田　好克
			吉田　大介
工学部共通		応用数学	松岡　千博
			小林　祐貴
		機械工作室	吉岡　真弥

専攻名	学科名	分野名	教員名
都市系	建築学科	建築構造	谷口　与史也
			吉中　進
		建築防災	谷口　徹郎
			ガヴァンスキ江梨
		建築材料	鈴木　裕介
		建築環境	梅宮　典子
			岸本　嘉彦
		建築デザイン	宮本　佳明
		建築史	倉方　俊輔
		建築計画	横山　俊祐
			徳尾野　徹
		建築構法	石山　央樹
		コミュニティデザイン	嘉名　光市
			蕭　閎偉
	都市学科	複合構造	鬼頭　宏明
		コンクリート構造	角掛　久雄
		橋梁工学・鋼構造	山口　隆司
		地盤環境工学	大島　昭彦
		地盤防災工学	山田　卓
		河海工学	重松　孝昌
		水理学	中條　壮大
		熱環境	西岡　真稔
		熱エネルギー設備	鍋島　美奈子
		水圏生態工学	相馬　明郎
		水圏環境工学	遠藤　徹
		水処理工学	貫上　佳則
		廃棄物リサイクル	水谷　聡
		環境都市計画	※嘉名　光市
			※蕭　閎偉
		交通計画	内田　敬
		交通環境	吉田　長裕
		空間情報学	ベンガテッシュ　ラガワン
			米澤　剛

※建築学科兼担

行事報告

第９回学生見学会（「ヤンマー株式会社」）の報告

平成31年２月13日（水）、９回目となる「学生見学会」が、①ヤンマー株式会社　特機エンジン統括部尼崎工場（尼崎市）、②ヤンマーエネルギーシステム株式会社　集中監視センター（梅田ゲートタワー）、③ヤンマー株式会社　本社ビル（大阪市北区茶屋町）を見学先として、次の要領で実施された。

12:15　工学部階段教室前集合・点呼
12:30　貸し切りバスで大学正門を出発
13:30　尼崎工場着 注意事項、工場概略説明（約20分）
14:00～　舶用エンジン製造工場見学（約１時間）、質疑応答（約20分）
15:30　尼崎工場出発
16:10　梅田ゲートタワービル着
16:20　集中監視センター見学（約50分）
17:20　本社ビル見学（約30分）
18:00～　本社ビル12階食堂でヤンマー市大OBを交え懇親会
20:00頃　現地解散
参加者：学生18名、大学より引率教員２名、同窓会より理事役員６名

バスで大学を出発する時点で「学生見学会」のスケジュールが開始する。ヤンマー尼崎工場に到着するまでの間、車中では、引率の先生方、同窓会役員全員がマイクをとり、自己紹介がてら、参加学生にさまざまな語り掛けが行われ、見学に向かう一団としての一体感が生まれた。

ヤンマー尼崎工場に到着すると、会議室にて、創業後100年を超えるヤンマーの歴史の概要、ヤンマーは、「食料生産」と「エネルギー変換」の分野のさまざまな課題解決において、今後も貢献し続けていくこと、尼崎工場は、「エネルギー変換」の分野における、特に世界が注目する高品質舶用大型ディーゼルエンジンの一貫生産拠点であること、などの説明を受けた後、２班に分かれて大型ディーゼルエンジンの製造現場の見学をさせていただいた。そこでは、美しく整理・整頓された巨大な工場建屋のなかで、機械加工工程、組立工程、艤装工程、試運転工程を経て、見上げるほどの舶用ディーゼルエンジンが完成していく様子をつぶさに見ることができた。

尼崎工場を後にして梅田ゲートタワービルに移動し、同ビル内に入居するヤンマー集中監視センターを見学させていただいた。同監視センターには、透明・半透明を切り替えることができるウオールを介して監視ルームと隣接するプレゼンルームが設けられており、このプレゼンルームにて、半透明に切り替えられたウオールに映し出されるコンテンツに基づいて、ＯＢであり、監視システムの開発者である松木遠隔監視センター長による説明を受けた。20,000を超える内外の法人、個人クライエントの機器をこの監視センターにつなげ、種々のエラーに即座に対応することによりクライエントに安心を提供することができるとのことである。

続いて、ヤンマー本社ビルを見学させていただいた。ヤンマー創業の地である大阪茶屋町に、創業100周年を記念して2014年に竣工した現ヤンマー本社ビル（YANMAR FLYING-Y BUILDING）は、食とエネルギーを考え、持続可能な資源循環型社会に向かい、テクノロジーで社会の課題に応えようとするヤンマーのこだわりが随所に現れたビルとなっている。南面の大規模な壁面緑化、北側壁面の海を行く船の帆をイメージしたフォルム、最新環境技術を駆使したCO_2ゼロ・エミッションシステムなどである。事務・会議スペースは、デザインや機能が追及されていることは勿論であるが、働き方にも改革がなされている。たとえば、このビルで働く職員は、自分の席が決まっていない、とのことである。所属部門により、おおまかなエリアは決まっているが、周囲と隔離できるスペースを含め、さまざまな形態の執務スペースがフロアのいたるところに設置されており、そのどこに居て仕事をしてもよい、とのことである。

盛りだくさんな見学スケジュールを終えた後、ヤンマー様のご厚意により、本社ビル12階の「社員食堂」において、懇親会を開いていただいた。「社員食堂」といっても、想像できる範囲をはるかに超えた場所であった。「プレミアムマルシェＯＳＡＫＡ」と名付けられているこの「社員食堂」は、土日には一般にも開放されているという、とても素敵な「カフェ」である。

ＯＢである森本専務はじめ、７名ほどのＯＢにもご参加いただいた。冒頭の森本専務からのお話、大学より長崎研究科長のお話のあと、会場のあちこちで、先輩方、先生方と参加学生との間で、時間いっぱいまで楽しい交流の輪が広がった。

今回も、学生諸君にとって、先輩が所属する施設を見学することができ、また、先輩と交流することもできた点で、とても有意義であったと思うと同時に、学生諸君は、とても礼儀正しく振る舞い、尼崎工場でも、集中監視センターでも、ヤンマー本社ビルでも、積極的に質問をしていた点が印象に残った。

最後に、今回の見学会開催に際し、大変お世話になりましたヤンマー株式会社の関係の皆様に、厚く御礼を申し上げます。　昭和52年機械工学科卒　吉田　稔（副会長）

第10回　学生見学会「シャープミュージアム」の報告

令和元年９月27日（金)、10回目となる「学生見学会」が、天理市に所在する「シャープミュージアム（シャープ総合開発センター内)」を見学先として次の要領で実施された。

13:00	工学部階段教室前集合・点呼
13:15	貸し切りバスで大学正門を出発
15:00～16:30	シャープミュージアム見学（休憩10分含む） （歴史ゾーン、技術ゾーン）
16:30～16:50	シャープ株式会社紹介
16:50～17:30	研究開発本部より技術プレゼン、質疑応答
17:30～17:45	休憩、移動
17:45～19:00	OBとの懇親会（社員食堂／立食）
19:10	タクシーに分乗して近鉄・ＪＲ天理駅に移動後、解散

参加者：学生14名、大学より引率教員２名、同窓会より理事役員５名

シャープミュージアム（シャープ総合開発センター）に到着するまでのバス車中、引率の先生方、同窓会役員全員がマイクをとり、自己紹介がてら、参加学生諸君にさまざまな語り掛けが行われ、学生見学会の目的の一つである「先輩との交流」の一端がみられた。

例えば、シャープの社名の起源である早川式繰出鉛筆「シャープペンシル」、国産第１号テレビ、量産電子レンジ、液晶電卓、フロントローディングVTR、日本語ワープロ、筆者も若いころ愛用した液晶ペンコム「ザウルス」、今では当たり前のカメラ付き携帯電話、多くの家庭やホテル、旅館に支持されているプラズマクラスター空気清浄機、健康志向の家庭用調理器「ヘルシオ」、モバイル型ロボット電話「RoBoHoN（ロボホン)」、８K対応70型液晶テレビ、これらはいずれも、「国内初」、「業界初」との称号が冠されるシャープの製品である。「まねされる商品をつくれ」との創業者早川徳次氏の精神を受け継いで生まれたこれらの展示物を擁する「シャープミュージアム」は、「常に時代の先端を行く家電開発の歴史」を展示しているというに相応しく、想像以上に見応えがあった。

会社説明の後、８Kに関する技術プレゼンを聴講した。８Kのテレビ放送は、現在NHKが提供するのみで、この放送を視聴可能な市販テレビは、シャープ製のみである。しかし、８K映像技術は、科学技術や医療の分野等、様々な分野での応用が期待されている。また、ネットとの融合に関し、８K精細度のオリジナル映像を現在の使用可能な通信速度に適合するように圧縮し、再生時に８Kに復元する最新技術の一端が紹介された。

シャープ様のご厚意により社員食堂で行われた懇親会は、参加学生諸君全員、人事ご担当や、本学工学部出身のシャープ所属OB、引率教員、同窓会役員の合計30名余りのにぎやかな会となった。参加学生はいつもになく女子学生が多く含まれており、会場のあちらこちらで明るく、楽しそうな会話の花が咲いた。引率の川合先生と宇野同窓会会長のお礼の言葉を最後に、懇親会はお開きとなった。

今回の参加学生は、少なめであったが、それ故に、シャープ所属のOBや同窓会役員とのより密度の濃い交流ができ、また、関西を代表する企業の歴史や今後に期する熱い思いを感じ取ることができ、有益な一日を過ごすことができたと思われる。

最後に、今回の見学会開催に際し、大変お世話になりましたシャープ株式会社の関係の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

昭和52年機械工学科卒　吉田　稔（副会長）

「第６回工学部新任・若手教授による講演会」の報告

工学部・工学部同窓会共催の「第６回工学部新任・若手教授による講演会～私の研究が目指すもの～」が「市大ホームカミングデー」の特別企画として11月3日15時から16時20分まで工学部G棟1階中講義室で開催された。同窓会員32名が参加。司会は吉田稔行事担当副会長（機械・昭和52年卒）。

講師は工学研究科化学生物系専攻教授　米谷紀嗣先生。

米谷先生のご略歴は、1997年3月京都大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了（理学博士）、同年4月大阪市立大学工学部応用化学科助手、講師、准教授を経て2018年より現職。ご専門は物理化学, 化学工学, 反応工学。高温高圧流体の基礎科学および工学的利用に関する研究に従事しておられます。

講演題目は「超臨界流体の科学と利用技術」。

はじめに、超臨界流体について水を例にとり解説された。通常の水には氷（固体）、水（液体）、水蒸気（気体）の３つの状態があるが、温度および圧力が臨界点（374℃、218気圧）を超えると水と水蒸気の区別が無くなり、液体に近い密度・溶解力と気体に近い流動性・拡散性を併せ持つ超臨界流体（超臨界水）となる。二酸化炭素も臨界点（31℃、72気圧）を超えると超臨界二酸化炭素となる。超臨界流体に対する様々な物質の溶解度は圧力を少し変化させるだけで劇的に変化する。また、臨界点付近のミクロ構造は分子が密に集まるクラスタリング現象により特徴づけられると解説された。

超臨界流体の工業的利用は1960年代のドイツにおける研究をきっかけに普及してきた。超臨界二酸化炭素の利用例として抽出（例：カフェインレスコーヒー）、分離（例：クロマトグラフィー）、染色（例：繊維染色）、乾燥（例：半導体ウェハー）、微粒子合成（例：医薬品粉末製造）、また、超臨界水の利用例として有害物質処理（例：ＰＣＢやＶＸガスの分解）、加水分解反応（例：工場排水処理）、リサイクル技術（例：ＰＥＴリサイクル）が原理とともに紹介された。超臨界水は高圧高温であるため利用にはコストがかかり未だ実験段階であるが、超臨界流体は安全かつクリーンであり、環境に配慮した技術として今後の発展が求められていると指摘された。

次に、先生が市大着任後にされた超臨界水に関する基礎研究のうち、レーザー分光法を用いたその場観察、吸収スペクトル測定で明らかになった臨界点付近の溶質まわりの水分子クラスタリング現象、超短パルスレーザー照射により生じる溶質まわりの水分子の特異なダイナミクス現象について紹介された。

そして、超臨界水をものづくりに応用した研究として、超臨界水を用いて金属ナノ粒子、特に銀銅合金ナノ粒子を大量に合成する技術、超臨界水中に二酸化炭素を任意の濃度で混合させ光合成により還元して有機物を効率よく作製する技術、水熱酸化法にフェントン型触媒を併用して従来の反応条件（温度と圧力）を大幅に温和化して難分解性汚染水を処理する技術が紹介された。

講演のあと、超臨界流体を工業的に応用する際のエネルギー回収、高温高圧下でのバルブの耐久性や漏れ、分子のクラスタリングを生じさせるエネルギーについて質疑応答がなされた。最後に、宇野勝久同窓会長（建築・昭和49年卒）より米谷先生に謝意が述べられ、講演会は終了した。

東　恒雄（昭和41年機械工学科卒・理事）

ご存知ですか？

大阪市立大学では、各分野で活躍している卒業生や教員等の専門家が講師となり、一般市民を対象にした専門家講座を毎年１月～３月に開講しています。分野は法律、会計、証券、技術、文化・歴史、理学、スポーツなど多岐にわたっています。会場は大阪駅前第２ビル６階にある大阪市立大学文化交流センターです。興味がお有りの方は、インターネットで 大阪市立大学オープンレクチャーズ で検索してみてください。

事務局便り

評議員会報告

会 議 名 第30回評議員会

日　　時 2019年２月16日（金）午後３時00分～４時10分

ヴィアーレ大阪

議案項目
①2018年度（第23期２年度）事業報告
②2018年度収支決算及び会計監査報告
③2019年度（第24期１年度）理事会役員案
④2019年度事業計画案
⑤2019年度予算案

議案書抜粋

①第23期第２年度（2018年１月～12月）収支決算書

（イ）経常費収支決算表（円）

収　入		支　出	
終身会費	5,730,000	会議費	174,557
貯金利息	31	行事費	326,700
経常寄付	479,216	交流・懇親行事費	112,228
		会報発行費	1,762,624
前期より繰越金	7,044,460	会員データ管理費	183,600
		協賛費	1,048,201
		渉外費	0
		事務局費	2,742,040
		通信費	94,696
		事務費	239,425
		備品費	86,206
		会費徴収費	52,380
		予備費	209,040
		次期への繰越金	6,222,010
合　計	13,253,707	合　計	13,253,707

（ロ）貸借対照表（2018年12月末）（円）

借　方		貸　方	
振替口座	2,092,094	2017年度　累計剰余金	7,044,460
普通預金	4,900,516	2018年度　剰　余　金	△822,450
定期預金	33,342,498	特別基金	34,113,098
合　計	40,335,108	合　計	40,335,108

②第24期第1年度（2019年度1月～12月）理事会役員

会　長：宇野勝久（建49）
副会長：吉田　稔（機52）　森田至彦（電51）
　　神門　登（化45）　日野泰雄（土50）
　　斎藤壽士（物44）
会　計：東　恒雄（機41）
理　事：宮本万功（機43）　笠上文男（機50）
　　瀧山　武（機59）　建部　渉（電35）
　　行藤三男（電36）　南　繁行（電45）
　　木村雅之（電51）　森田至彦（電51）
　　村治雅文（電62）　西　邦夫（電H13）
　　山田文一郎（化修40）　三浦洋三（化42）
　　西口克彦（化43）　安田　裕（化48）
　　大嶋　寛（化49）　芝野弘之（土44）
　　浅井真一（土48）　黒山泰弘（土50）
　　廣瀬彰則（土54）　大島昭彦（土55）
　　上林恭子（土H5）　貴志義昭（昭41）
　　坂　壽二（建42）　太田隆司（建55）
　　小西浩夫（建56）　谷口徹郎（建59）
　　田守芳勝（物38）　柳川重昌（物44）
　　山本　孝（物45）　大前秀治（物56）
監　事：高桑久茂（電46）　志野太一（物40）

③第24期第1年度（2019年1月～12月）事業計画
①会報第35号を12月中に発行・配布。
②工学部・全市大行事及び事業への協力。
③会員相互の親睦交流の促進。
④特別基金の活用。
⑤工学部同窓会奨学金基金の運用。
⑥準会員（在学生）の工場見学の実施。
⑦工学部・同窓会共催；新任・若手教授による講演会の実施。

④第24期第1年度（2019年1月～12月）経常費予算（円）

収　入		支　出	
終身会費	6,060,000	会議費	160,000
貯金利息	1,000	行事費	120,000
経常寄付	589,000	交流・懇親行事費	120,000
前期繰越	6,222,010	広報費	1,760,000
		会員データ管理費	200,000
		協賛費	1,050,000
		渉外費	20,000
		事務局費	2,600,000
		通信費	100,000
		事務費	170,000
		備品費	100,000
		会費徴収費	50,000
		予備費	200,000
		次期への繰越金	6,222,010
合　計	12,872,010	合　計	12,872,010

2019年工学部卒業新評議員名簿

機械工学科	澤田　夏志	福富　直輝	
電子・物理工学科	柴田　智裕	田中　大智	
電気情報工学科	三宅英里佳	石田　剣一	
化学バイオ工学科	大島　滉主	谷井　拓己	
建築学科	嶌田　優実	鈴木　充法	
都市学科	武野　航大	高橋　宣希	

第31回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。

さて、標記の**第31回評議員会**を下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、ご欠席の場合の**委任状**（後日送付）を、**2020年２月７日（金）**までに必ずご発送ください。

記

日　時：2020年２月22日（土）
午後２時00分～３時00分
会　場：大阪市立大学学術情報センター１階

理事会報告

第23期第9回理事会

日　　時	2018年12月12日午後6時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	18名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②奨学金決定審査委員会について ③同窓会報34号の発行について ④工場見学会について ⑤理事役員の改選について ⑥第30回評議員会の開催について

第23期第10回理事会

日　　時	2019年1月24日午後6時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	15名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②評議員会議案について ③工学部同窓会事務局責任者の交代について

第23期第11回理事会

日　　時	2019年4月17日午後6時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	15名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②広報関係事業報告 ③奨学金関係報告 ④今期の理事会について ⑤理事の役割分担について

第23期第12回理事会

日　　時	平成30年7月18日午後6時～
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	14名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②広報関係報告 ③同窓会奨学金関係報告 ④2018年度ホームカミングデーの実施行事について ⑤事務局備品の購入について ⑥学生見学会について

第23期第13回理事会

日　　時	平成30年9月25日午後6時
場　　所	大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
参加理事数	12名＋事務局
主な議題	①会長報告 ②事務局報告 ③奨学金関係報告 ④工学部同窓会報第35号の発行について ⑤評議員会開催について

2019年度 工学部同窓会奨学生採用の報告

工学部同窓会設立50周年記念事業として創設された「工学部同窓会奨学金」制度は、同窓会の保有資産から3,000万円、設立50周年記念募金（2009年9月～2011年3月）から850万円、合わせて3,850万円を運営資金として2009年に発足しました。

経済的理由により入学後の修学に困難が予想される優秀な高校生に対して、入学試験の出願時期より１ヶ月以上も前に奨学生の募集と内定を行い、入試に合格した場合には入学手続き時より奨学金を貸与するのが特徴です。入学手続き時に50万円、それ以降２，３，４年進級時にそれぞれ25万円の計125万円を無利子で貸与します。

2019年度は推薦入試（指定校制推薦を含む）合格者1名に対し、入学時に50万円を貸与しました。2010年度入学生から奨学生募集を開始し、今年で計15名に貸与したことになります。そのうち、3名が卒業（内1名は大学院前期博士課程修了）、1名は3年終了時点で中途退学し、これら4名の方には「自動送金」により工学部同窓会の銀行口座に返還してもらっています。

さて、2022年度の入学試験は大阪市大と大阪府大が統合した新大学で実施される方向で進んでいます。また、高等教育無償化の新法が2019年5月に可決され、これを受けて大阪市も大阪市大の授業料無償化を、一定の制約条件はありますが、実施しようとしています。

これらの状況を踏まえ、2021年度入学生向け奨学生募集をどうするか、工学部と話し合う予定にしています。

奨学金担当理事　東　恒雄（昭和41年機械工学科卒）

● 表 紙 解 説 ●

Gleaming Canal in Bruges
（鮮やぐ運河）

水墨画　73×182　建部　渉画（昭和35年電気工学科卒）

ベルギー旅行の際、水の都といわれるブルージュを訪れた。縦横に運河が流れ、多くの橋が架かっている。街を散策していた際出会った鮮やかな運河風景を描きました。

工学部同窓会員連絡先調査への ご協力のお願い

同窓会員の皆様には毎年12月に「同窓会だより」をお送りします。また、大阪市立大学同窓会（全学同窓会）が発行する「全学同窓会報」も工学部の卒業生には工学部同窓会員名簿に基づき発送しています。しかし、毎年、100名前後の方への発送分が返送されてきます。また、工学部の卒業生（大学院進学者、都島工専卒業生を含む）は14,000人余りですが、約4,000名の方が連絡先不明です。

大阪市立大学と大阪府立大学の統合が現実味を増してきています。大学統合の趣旨や形態、とくに工学部はどのように変わるのかなども、卒業生には「同窓会だより」「全学同窓会会報」を通して伝えたいと考えています。

つきましては、転居の際には学科（専攻）名、卒業（修了）年、氏名、郵便番号、連絡先（現住所）を葉書、メール、または以下の同窓会ホームページの「連絡先変更依頼」よりご連絡ください。また、クラスメートに「同窓会だより」が届いていない方がおられたら、送付先を同窓会事務局に連絡するようお伝えください。

工学部同窓会ホームページ：http://kougakubu.osaka-cu.net/

〈同窓会事務局連絡先〉
住所：〒558-8585　大阪市住吉区杉本3－3－138
電話：06－6607－8373
Fax：06－6605－2769
メールアドレス：dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp

大阪市立大学工学部同窓会事務局

投稿方法・事務局への連絡先

会員短信に投稿を希望される方は、工学部同窓会事務局にお問い合わせください。

☎ 06-6607-8373　**dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp**

編集後記　同窓会だより第35号をお届けします。

大阪市立大学工学部の歴史は来年度で60周年を迎えます。大阪市立大学は140周年を迎えさまざまな記念行事も予定されております。工学部同窓会は機械工学科、電子・物理工学科、電気情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科、都市学科の6学科の卒業生で構成されております。役員、理事さんはそれぞれの学科卒業生からの代表者です。卒業生も11000人を超える大組織に成長しました。今回の同窓会だよりの発行にあたり、お忙しい中にもかかわらずご協力頂き、ご寄稿頂きました大学の先生方、卒業生の皆様に感謝申し上げます。大阪府立大学との統合も間近に迫って参りました。新大学に移行しましても学生さんの人数は確保される見通しです。卒業生の皆様には、同窓会だより、大阪市立大学工学部同窓会ホームページ、メールマガジンなどで情報発信しております。卒業生の皆様も積極的に同窓会活動にご参加されることを期待いたします。

編集委員（◎印：編集長　○印：副編集長）
◎斉藤　壽士（応物：昭和44年卒）○向山　博（電気：昭和45年卒）
瀧山　武（機械：昭和59年卒）森田　至彦（電気：昭和51年卒）村治　雅文（電気：昭和62年卒）山田　文一郎（応化：昭和40年修）大嶋　寛（応化：昭和49年卒）谷口　徹郎（建築：昭和59年卒）黒山　泰弘（土木：昭和50年卒）大島　昭彦（土木：昭和55年卒）山本　孝（応物：昭和45年卒）

“工学部同窓会の集い”
ー第13回キャンパス交流会ー

来春の“工学部同窓会の集い”は第13回キャンパス交流会として、下記の通り開催します。
今年は荒川学長にご講演いただきます。
また、懇親会は旧教養地区北食堂で開催し、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようにお願いする予定です。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ･クラス会や、ミニ･職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております。

記

日　時　2020年２月22日（土曜日）
午後３時20分～午後６時30分

講演会　**時　間：**午後３時20分～午後４時20分
会　場：大阪市立大学学術情報総合センター（１階）文化交流室

仮題「市大創立140年を迎えて～これからの大学の在り方～」
大阪市立大学　学長　荒川　哲男　氏

懇親会　**時　間：**午後４時30分～午後６時30分
会　場：旧教養北食堂
会　費：3,000円（当日、会場にて徴収）

申込方法

1 連絡事項：①ご氏名　②学科（専攻）名　③ご卒業（修了）年
④住所（連絡先）　⑤講演会の出欠　⑥懇親会の出欠

2 方　　法：ハガキ、FAXまたはe-mail、ホームページの申し込みフォーム

3 期　　日：2020年２月14日（金曜日）

申 込 先

大阪市立大学工学部同窓会　事務局
〒558-8585　大阪市住吉区杉本３-３-138
FAX：06-6605-2769
e-mail：dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp
HP：http://kougakubu.osaka-cu.net